

### 3 朝日大学学生の GPA 傾向、入試区分との関係 (2016 年度)

## GPA評価と関連項目との関係

### GPAとは

GPA (Grade Point Average)		
成績の評価		
5段階評価	素点	GP
S	100-90	4.0
A	89-80	3.0
B	79-70	2.0
C	69-60	1.0
D	59以下	0.0

### GPAの算出

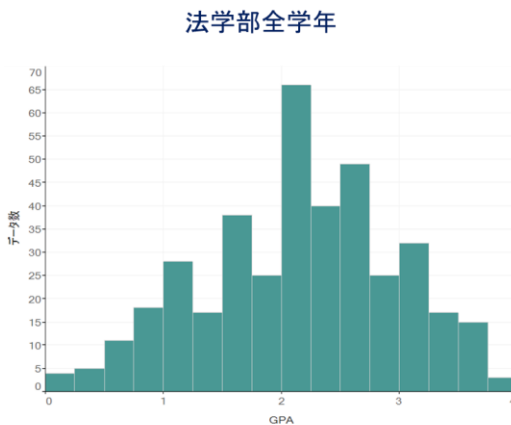
**単年GPA**= (当該学年に評価を受けた授業科目のGP X 当該授業科目数の) 単位数の合計 / 当該学年に評価を受けた授業科目の単位数の合計

当該学年に評価を受けた授業科目の単位数の合計

**通年GPA**= (在学期間中に評価を受けた授業科目のGP X 当該授業科目数の) 単位数の合計 / 在学中に評価を受けた授業科目の単位数の合計

在学中に評価を受けた授業科目の単位数の合計

2016年度における朝日大学学生のGPA傾向 (最終報告より)



### 法学部全学年GPA平均値

データ数	393
平均	2.13
標準偏差	0.82

### 法学部全学年性別GPA値

	男	女
データ数	333	60
平均	2.09	2.38
標準偏差	0.82	0.76
性差 (p値)	0.0114	

### 法学部入試区分別GPA値

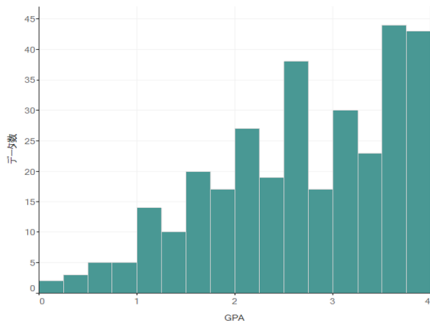
	指定校推薦	一般・スポーツ推薦	AO入試	一般入試	センター
データ数	97	208	60	16	12
平均	2.68	1.90	1.94	2.12	2.75
標準偏差	0.68	0.72	0.83	1.11	0.79

### 入試区分間の差

	指定校推薦	一般・スポーツ推薦	AO入試	一般入試
一般・スポーツ推薦	0.0000			
AO入試	0.0000	ns		
一般入試	0.0080	ns	ns	
センター	ns	0.0001	0.0059	ns

ns: not significant 27

### 経営学部経営学科全学年



### 経営学科GPA値

データ数	317
平均	2.67
標準偏差	0.94

経営学科における全学年のGPA値(SD)は、2.67(0.94)であった。GPA3以上、4に近いGPAを示す学生が多いのが本科の特徴であった。

### 経営学科入試区分別GPA値

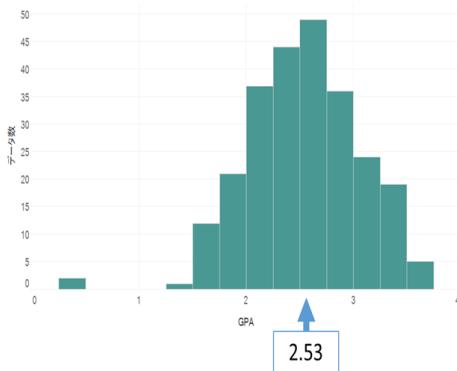
	指定校推薦	一般・スポーツ推薦	AO入試	一般入試	センター	留学生
データ数	76	86	71	8	4	72
平均	3.12	2.42	3.07	2.18	3.33	2.13
標準偏差	0.61	0.93	1.00	1.35	0.25	0.74

	指定校推薦	一般・スポーツ推薦	AO入試
一般・スポーツ推薦	0.0000		
AO入試	ns	0.0000	
留学生	0.0000	0.0331	0.0000

### 経営学科入試区分別性別GPA値

	指定校推薦		一般・スポーツ推薦		AO入試		一般入試		センター		留学生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
データ数	56	20	70	16	49	22	7	1	3	1	28	44
平均	3.01	3.40	2.27	3.08	2.84	3.58	1.99	3.50	3.23	3.60	1.97	2.23
標準偏差	0.61	0.55	0.92	0.63	1.09	0.48	1.34	0.21	0.76	0.73		
性差(p値)	0.0159	0.0015	0.0037	-	-	-	-	-	-	-	ns	

### 保健医療学部看護学科



### 看護学科全学年GPA値

データ数	250
GPA平均値	2.53
標準偏差	0.52

GPA平均値(SD)は2.53(0.52)であった。平均値を中心にほぼ正規分布をしていた。

### 全学年入試区分別GPA値

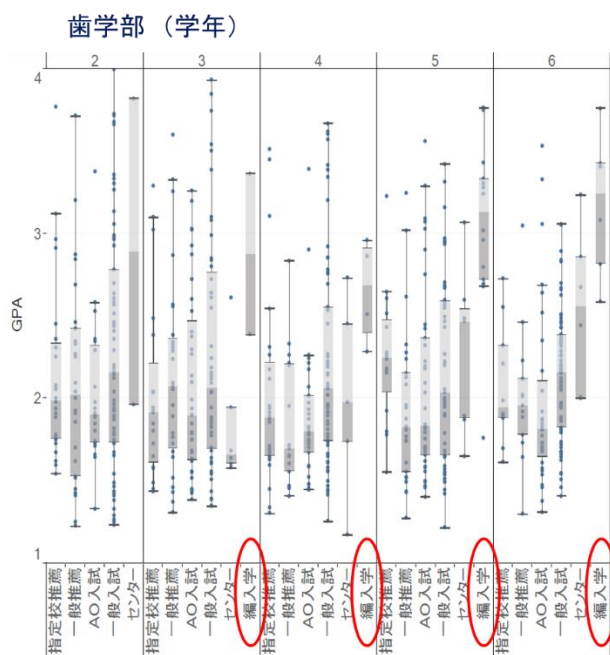
	指定校推薦	一般推薦	一般入試	センター	
データ数		29	106	113	2
GPA平均値		2.70	2.33	2.67	2.79
標準偏差		0.43	0.48	0.51	0.48

指定 vs 一般推薦  
 指定 vs 一般入試  
 一般推薦 vs 一般入試

指定 vs 一般推薦	p=0.0003	
指定 vs 一般入試	ns	-
一般推薦 vs 一般入試		p=0.0000

全学年における入試区分間差については、指定校と一般入試は一般推薦に対し有意に高く、指定校と一般入試に差はみられなかった。

## 歯学部におけるGPAと入試区分との関係



- 3～6年生における編入学生の GPA値は他の入試区分より著しく高い。
- 歯科医師国家試験合格は「編入学」と「センター試験」グループが安定して高い合格を示し、次いで「指定校」であった。
- 「一般推薦」は、国試不合格率が高かった。
- 本IR分析結果を基に、**歯学部**では2018年度入試から、「**社会人入試**」を設定した。

\* 箱ヒゲグラフ: 一次元のデータの分布を簡潔に表現する。最小値、最大値、平均値、中央値、四分位数が分かる。

## 2016 年度 GPA 分析のまとめ

GPA 分析で学部の特徴がみられた。法学部と保健医療学部はほぼ平均値を中心に左右に正規分布していたが、歯学部は左方 (GPA の低い方) にピークがあり、経営学科は比較的右方にピークがあった。この理由として、歯学部では必須の科目が多いこと、覚えなければならない項目が多いことなどが GPA の伸びにくい理由と考えられた。また歯学部では学習および試験に対する取組として、高い得点を目指すものでなく、「合格」レベルを目指す学生が多くいることも GPA のスコアが伸びにくい理由と考えられた。

経営学部経営学科においては会計研が特に高い GPA 値を獲得しているものと考えられた。性差をみると、いずれの学部・学年・入試区分とも、女子が男子学生よりも高い GPA を獲得していた。

入試区分でも学部・学科の特徴がみられた。法学部は、指定校が高く、次いでセンター入試であった。経営学科では、指定校と AO 入試が高い GPA を示し、留学生が低かった。ビジネス企画学科では、センター入試が最も高く、次いで指定校推薦、一般入試であった。看護学科は、指定校・一般入試が一般推薦よりも安定して高い GPA を示していた。歯学部では、編入学生が特に高く、次いで一般入試、指定校推薦、一般推薦・AO 入試の順であった。

高校評定値と GPA との相関をみると、歯学部を除くどの学部・学科とも正の相関がみられ

た。中でも経営学部経営学科の相関係数が法学部・経営学部ビジネス企画学科・看護学科に比し高い相関を示していた。これは各学部学科とも本学教育内容が高校・受験生から高い評価を受ければ、さらに優秀な高校生が本学を希望する、あるいは高校から推薦してくれるという好循環が生まれてくる証ではないであろうか。

今回、IR推進本部で初めて全学部・学科における2016年度末までのGPA値を集計した。国は高等教育のディプロマポリシー成績評価の中にGPAによる評価を取り入れることを求めている。本学でも2016年度におけるGPA値を出発点として、学生がさらに高いGPA値を採れるように、各学部・学科・教員間でPDCAを働かせ、GPAの最大化を目指して学生を教育・指導すべきと考える。それが朝日大学の評価を高めることになる。